

第四十六回 ワンライ「寂しくないですか、記念写真」

「セナ、兄貴と最後にあつたのって何時なんだ？」
「いきなりだね、唯。最後に会つたのか……突然会いたくなつて、連絡取つたら晶が珍しく日本に居たから会いに行つて過ごしたのが最後かなあ、もう一ヶ月ぐらい前の話だよ」

一ヶ月程前、僕が珍しく会いたいと思つて連絡を取つたら日本国内で仕事をしていた晶、僕が会いたいと、連絡する事にちよつとびつくりして

「セナが会いたいつて珍しいねえ……しかもちゃんと会いに行くつていうのが尚更」

「唯は僕を何だと思つてるんだ？」

「え？ キャンプと放浪好きの変人」

「変人か、間違つてはないな。でもね、唯、僕だつて恋する事が出来る一人の人間なんだよ」

そうだ、また後で晶に連絡取つてみようかな……話してたらまた会いたくなつた。

「あ、セナ、今兄貴の事考えてるでしょ？ つてか、会つた時、兄貴何の仕事してた？ 日本で仕事すること滅多に無いのに……」

「何故分かつたし。後で連絡取つてみるだけだよ。仕事？」

「いですか？ つてタイトルの写真集で使うポートレート撮影してたよ」

「へー、また写真集出すんだ。売れるもんねえ……セナは写つたの？」

「突然、僕が現れた事に対して撮影スタッフ大慌てでうちの会社に連絡して、許可取つてたね、ゲストとして僕も撮つてもらつたよ。ツー

ショットとかもね、記念写真として後日写真貰つたよ」

二人共ウエディングドレス着て誓いのキスしてるシーンの写真つて僕以外に需要あるのかね……？

「家に飾つてるの？」

「んーん、家なんて滅多に帰らないから持ち歩いてるよ」

「あー、戀さんってイジられるからね」

「姉貴に見つかつて結婚の話がポシャつてるとか嫌だからさ」

「セナが結婚願望持つてると……？ つてか、戀さんの信用……」

「あるわけ無いでしょ？ アレで大企業の社長してるのが不思議なぐら

いなんだからさ。結婚願望は晶と付き合ひ始めてしばらくしてから考

え始めたよ」

「そつか、まあ確かに、話を聞くだけだと有能、会つて話をするとか何故

社長として仕事してるのか不思議に思うもんね。結婚式にはちゃんと

呼んでねー。さて、私は仕事に戻るかな、セナは会いに行つてきたら？

兄貴なら昨日辺りからまた日本に居るはずだから、兄貴がセナに会いた

がつてたよ」

「本当かい？」

「なら会つてこようかな」